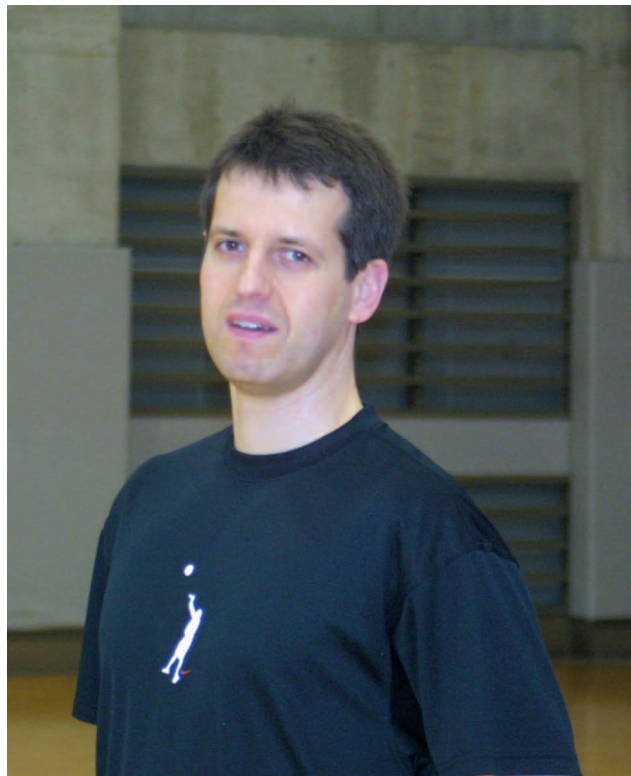


●PROFILE● トーステン・ロイブル (TORSTEN LOIBL)
生年月日: 1972年5月1日 / 国籍: ドイツ
ドイツU16、U18のコーチやアシスタントコーチなどを歴任
2002~2006年ドイツプロリーグ BG Chemnitz99 HC
2006年~トヨタ自動車アルバルクHC

ドイツから日本へ バスケットボールを愛する 彼が見た日本のバスケットとは

スピードはある。あり過ぎて
コントロール出来ない

——日本に来た経緯を教えてください。
Chemnitz99ers (ケムニッツ・ナ
イティナイナース)をはじめ、様々



なチームのコーチをしていました。
長い間ヘッドコーチをしていました
が、同じチームで指導しているとり
フレッシュして何か違うことをした
いと思う時期がありました。折りし
も埼玉県スポーツ国際交流員の話が

ポテンシャル(潜在能力)という
意味では『Yes(可能)』だと思っ
ます。そのポテンシャルを活かしき
れていないのが問題です。全般的な
コーチングについて少し疑問もあり
ます。学校というシステムとクラブ
システムとで大きな隔たりがありま
す。学校では同じ年代の子供しかプ
レイしません。指導する人もその学
校の子供だけしか指導出来ません。
当然勝ちたいとすると近視眼的にな
って勝ちに繋がるバスケットだけを
教えてしまいます。クラブチームだ
と年齢に関係なくプレイすることが
出来ます。大人の選手に混ざって十
代の選手が練習することも可能で
すし、長い期間コーチ出来る利点もあ
ります。
——日本とドイツのバスケットに共通点
はありますか？
才能を持った選手が他のプロスポ
ーツに行ってしまう事がある。日本
でも同じだと思いますが、ドイツで
はサッカーなどに選手が流れてしま
う傾向にあります。当然アメリカ等
と比較しても、タレント(才能)と
いう面では見劣りします。勝つ為に
はファンダメンタル(基礎)の徹底

トーステン・ロイブル

Torsten Loibl

しかありません。
勝つ続けるのは難しい

トヨタ自動車アルバルクについ
ての印象？
——非常に組織化された良いチームで
す。選手をはじめ、スタッフ、設備、
環境全てが充実していて大変素晴ら
しいです。コーチとしては少し難し
い問題があります。昨シーズン優勝
したことで、今シーズンも優勝しな
くてはならないというプレッシャー
がありますから。今まで以上に高い
モチベーションを持つことに少し重
圧を感じます。優勝を目指すことも
困難ですが、維持し続けることは更
に難しいことなのです。リーグの中
で比較しても平均年齢も高く、サイ
ズも無いですが、競争心と勝ちたい
強い気持ちではどのチームにも負け
ていないと思っています。一つアド
バンテージがあるとすればポイント
ガード(以降、PGと表記)に外国
人選手を置いていることです。PG
は普通小さい選手ですが、日本人選
手よりもサイズがあるということが
有利になります。
——オフの過ごし方について

あり、最初は全く異なる文化の中で
コーチングをしたり、生活していく
ことは非常に難しいことだと思いま
したが、自らを試す事と気持ちを持
り替える意味で日本に来ました。
——日本のバスケットボールの印象
は？

全体的にシュートが上手く、スピ
ードがあります。スーパーリーグを
除くと、日本バスケットの一番の問題は
スピードを出し過ぎていて、ゲーム
コントロールが出来ていない事だ
と思っています。特に学生にその傾向
が強くと感じます。ディフェンスと
フィジカルレベルに置いては日本
とヨーロッパに大きな違いを感じま
す。

——(リーグがオフの期間に)クリ
ニックなどを行っています。欧州
に行けそうな選手はいましたか？
クリニックを行っているのは選手
をリクルートする為ではありません。
アドバイスすることは出来ますが、
誘うことはありません。反対にヨー
ロッパから日本に選手を連れてきた
いと思う事はありますけど。

——日本人選手が欧州のリーグでプ
レイすることは可能だと思いますか？
休みはないですね(笑) じつとし
てTVを見たりするのが好きではな
いので、常に体を動かしています。
休みの日でも意識して忙しくして
います。シーズン中は時間がなが
いので、クリニックを行うことも出来ま
せんが、シーズンが終わり完全なオ
フになれば、クリニックで指導しま
す。
——日本の選手がヨーロッパでプレ
イする道筋はありますか？
プレシーズンにキャンプや試合を
行いたいと思っていますが、まだ具
体的に考えていません。その事を考
える余裕もないのが現状です。今は
リーグの事だけに集中したいと思っ
ています。
——今日はありがとうございました。
こちらこそありがとうございました。
実は2回に分けてインタビューを行
いました。時間の無い中でも快く受
けてくださったトーステン氏に感謝
します。